

『酸っぱいレモンをもらったら、 それで甘いレモネードを作ろう』

遺愛では毎朝礼拝がありますが、月曜日には市内のキリスト教会の牧師先生に来ていただき、聖書の御言葉に基づいたお話を聞くことができます。

2月7日(月)の月曜礼拝では、たまたま来函中だった、名古屋のミッションスクールである金城学院中学高校宗教主任の沖崎学先生にお話をさせていただきました。沖崎先生はメッセージの冒頭から『レモンをもらったら、甘いレモネードを作ろう』と語り、何を言いたいのだろうと私たちの興味を引きました。

内容を紹介しますと、アメリカのコネチカット州に生まれたアレックスちゃんは、1歳で小児ガンになってしまいます。16時間にもおよぶ腫瘍摘出手術は成功しましたが、1年後に癌は再発、入退院を繰り返し2000年には4歳になり、病院に親友もできました。同じ小児ガンと闘う女の子で、互いに励ましあう心強い存在でした。2人は「今、世界中でガンの研究をしているから、きっといい薬ができるって。二人でがんをやっつけようね。」と約束していましたが、アレックスちゃんが一時退院中に、その親友は病院で亡くなっていました。とてもショックでしたが、人の死を4歳のアレックスちゃんは自分なりに理解したようでした。そんなある日、テレビを見てみると、子供たちが働いてお金を得ることを学ぶため自宅の前でレモネードを売る光景が出てきました。それをじっと見ていたアレックスちゃんは「ママ、私ね、レモネードスタンドをやりたいの」と言い出しました。その理由とは、「お金を病院にあげるの。がんのお薬ができるように、そしてみんなを助けてあげるの、ガンをやっつけるんだ！約束したんだもん」それは先に亡くなった親友との約束でした。

両親はとても驚くのですが、何とか願いをかなえたいと、2000年6月に自宅前で準備にとりかかり家族で作った「アレックスのレモネードスタンド」と名づけたお店をオープンしました。一杯60円でしたが、数時間後スタンドには行列ができていました。さらにアレックスちゃんは、アメリカ全州に「アレックスのレモネードスタンド」を建てるという壮大な夢を持ちます。まわりの人達はさすがにそれは無理と思いましたが、アレックスちゃんの考えに賛同する多くの人達により、レモネードスタンドがアメリカ各地でオープンし始めました。しかし、すでにアレックスちゃんのガンは全身に転移していました。両親は真剣に神様に祈りました。「どうかアレックスの夢を叶えて下さい」と。すると2004年6月に奇跡が起きていました。なんと、アラスカからハワイにいたるアメリカ50州すべてで「アレックスのレモネードスタンド」がオープンしたのです。「私のようにガンで苦しむ子供を救いたい」という小さな思いで始めたことが、これほど多くの人たちを動かすなんて…そんなアレックスちゃんには好きな言葉があります。「人生が酸っぱいレモンをくれるなら、それで甘いレモネードを作ればいい。」アレックスちゃんは4歳から、この言葉通りの人生を歩んできました。2004年8月1日、アレックスちゃんは、8年半の短い生涯を閉じました…「アレックスのレモネードスタンド」は、現在でも全米に1000箇所以上あります。その収益はすべてチャリティーとして小児がん研究に捧げられているそうです。そして50州すべてにスタンドがオープンした6月12日は「アレックスのレモネードスタンドデー」と定められました。

自分に与えられた辛い事(酸っぱいレモン)に、「何故私だけ・・・？」と嘆いたり、悲観したりしても何も生まれない！例え、困難なことに出会っても、それを転換する(甘いレモネードにする)方法は必ずある！！神様はそのような力を私たち1人1人に与えてくれます。…病に苦しみながらも大勢の人に愛と勇気を与え続けたアレックスちゃんの思いは、レモネードと共に更に広がっています。…月曜礼拝では、ステキなお話が聞けます。

2022年2月8日(火)

